馬耳東風

日没が早くなり自然界のエネルギーが徐々に衰え，野山を染めた紅葉も散り，人里から色彩が無くなって来ると年の瀬が近いことを感じる．街ゆく人々の顔にも哀感が漂うこの季節，日常の雑事から解放されじっくり読書するのも良いものだ．

この頃，気掛かりな事は，デジタル技術が発達した現在，四千年以上の歴史を持つ紙を使った記録媒体の利用がどんどん縮小しているように思えることである．文明は先人の成し遂げた事が原物・作品として残され，また文書として記録・保存されて次世代へ継承されることで発達してきた．その中で紙を媒体とした手書き，印刷文書が果たした役割は計り知れない．しかし，最近，印刷物は不要と考える人が増えつつあるようで，図書館不要論まで出てくるご時世である．確かに知りたい事を成書，雑誌のような印刷物を読んで調べるよりも，更にインターネットで検索することで即座に回答が得られるし，手間と時間は省けるであろう．またネット配信される種々な情報は，時間，場所を問わず画面上で読むことができる利便性はあるだろう．一方，書籍など印刷物を持てば保管するために場所を要し，整理する時間も必要になる．だからといって，印刷・製本された書籍は要らないという考えには同意できない．本を読むという行為は単に文字情報を読んでいるのみでなく，時には本文中に傍線を引いたり，片隅を折り曲げたりして，「これはあの本の何処に書いてあった」など本の内容は位置情報としても記憶に残ってゆく．しかし，PC 画面上で読んだ情報はその場限りのもので，記憶に残りにくいと感じるのは印刷物世代の偏見であろうか．電子媒体で配信される情報は，実態がなく，情報機器と一体となって初めて利用できるもので，記録媒体・機器が変われば利用不能になることから，常にそれに合わせて更新する必要がある．情報の信頼性，機密性などに関する問題点がある電子媒体に比べ，利便性，経済性などからしても印刷物の優越性は揺るぎないと思われる．米国では 80％以上の大学図書館で出版物は書籍で保管しているという記事を読んだが，やはり情報の記録・保存媒体としての紙の重要性は今後も変わらないであろう．

最近，学校でも教科書の代わりに各自の机上にある PC 画面を見ながら授業する時間が増加しているという．現在の情報社会の中でそれは必然的な流れであろうが，PC を利用する目的，考え方を明確にして実施しないと教育効果が上がるかどうか疑問が生じる．先般，OECD が 2012 年に 15 歳の生徒を対象に，学校における一人当たりの PC 台数と，数学的能力の学習到達度調査成績との関係を 2003 年の同調査成績と比較した結果が新聞紙上に載っていた（2015.9.15 朝日）．それによると，PC 台数が多い国では成績が下がり，少ない国では成績が向上したという．また，PC の使用頻度と成績の関係を見ると，高頻度使用群での成績が最低であったという．先端的技術の応用も数学の理解度を上げる事には必ずしも連動しなかったという事で，PC 普及率よりも教員の指導力の重要性が表れたと考えられ，今後，問題になるのではないかと感じた．本稿を書き終えたとき獣医界にも関係が深い大村智北里大学特別栄誉教授の 2015 年度ノーベル医学生理学賞受賞の吉報を聞いた．昨年の赤崎・天野らの受賞も今回の受賞も，共に実学分野でひたすら努力を重ねた結果，達せられた業績が高く評価されたということで素晴らしい受賞である．（青）

）